

少年サッカーの現場 ～YMCAの活動から感じること～ 奈良県が大切にしなければならないもの

奈良YMCA・SC 代表 上 地 信 親

2005年12月に大阪府で行われた第29回関西少年サッカー大会で幸運にも我々は初優勝を成し遂げ、県予選においても2度目の県大会優勝を飾ることができました。この場をお借りしてお世話になった皆様に心から感謝申し上げます。

今回の優勝は、幼児からの一貫指導が実を結び、選手・保護者・指導者が上手にかみ合った成果であると考えています。特に選手の堂々とした戦いぶりは賞賛に値するものであったと我がチームながら感じています。ただ『優勝したもの…』。選手がどれだけのスキルを身に付けたのか。ゲーム中どれだけ頭を柔らかくしてプレーしていたかと問われればまだまだ足りない事ばかりです。

皆さんと同じように小学生年代で育成と戦績を共存させていくことにジレンマを感じ続けていますが、もう一度原点に戻り生まれ変わらなければならないと思っています。例えば攻撃では、【相手のミスを誘うプレーに頼りすぎたり】、守備においても、【カバーリングの意識を強く持たせすぎて、最も大切な自分の力で相手のボールを奪うという事がおろそかになったり】、また【ゲーム戦術に頼りすぎたり】など大人の考えで効率よく考えすぎるところがあったと思います。しかし小学生年代においては、【相手のミスなしにゴールまでボールを運ぶ】、【まずは目の前の相手に負けない。その中で負けたくなければカバーリングが勝手に生まれてくる】、【相手の良さを消すのではなく、お互いの良さをぶつけ合う】など良い意味で色々教えすぎない事の重要性を改めて感じています。見栄えが良いように形から入っ

ていくのではなく、大人から見れば非効率的でも、その中で選手自身が、状況に応じたプレーに気づく(必要性を感じる)のを待つ勇気を持ちたいと考えています。そのような環境で選手を育む事で、生涯スポーツとしてサッカーに関わるサッカーファミリーの増加につながり、世界で通用する代表選手も生まれて来るのではと考えています。どこまで出来るかはわかりませんが、子どもの学ぶ力を育むより良いクラブを目指してチャレンジしていきたいと思えます。関西地区で決して競技人口の多くない奈良県が、各カテゴリーで関西でも充分に対抗できているのは、今まで、そして現在も奈良県を支えて頂いている先輩指導者の方々の多大なるご尽力の賜物に他なりません。この少子化の中で、今後も奈良県から全国に何か発信していくには、今まで大切にされてきたことを、私を含め、私の年代、もっと若い年代の指導者が理解し、奈良県としてどのように選手を育ていくのか今一度考える時期が来ているのではないかと感じています。そのために微力ながら私自身も頑張っていきたいと思えます。



第27回 奈良県小学生サッカー大会
兼 第29回関西少年サッカー大会奈良県予選
優勝：奈良YMCAサッカークラブ